

第3回学校協議会

日時：平成30年2月21日（水）

場所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

・委員	浦田 太	吹田市立千里丘中学校 校長
	豊留 由美子	吹田市立東山田小学校 校長
	城下 英行	関西大学社会安全学部准教授
	本岡 直樹	吹田東高等学校 PTA会長
校長	佐々木 啓	吹田東高等学校 校長
事務局	井川 紀代子	吹田東高等学校 教頭
	芝野 雅人	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	丸山 勉	吹田東高等学校 指導教諭
	山内 晴美	吹田東高等学校 教諭
	山本 恵理	吹田東高等学校 教諭
	森田 眞斗	吹田東高等学校 教諭

◆開会挨拶

佐々木校長より

◆議 事

○報告事項

(1) 授業アンケートについて 《資料1》

【結果報告】

(丸山指導教諭)

- ・1学期の最後に生徒にアンケートを取り、その結果を各教科、担当に返し、それぞれで検討や改善し、12月にまたアンケート実施している。
- ・全体的に昨年より今年度の方が評価が高くなっている項目が多く、また、7月より12月の方が評価が高くなっている項目が多い。
- ・3年生は2学期に進路が決まってから気が抜ける生徒もいるので、自分自身の取り組みで評価が下がっている項目がある。
- ・評価がある一定のポイント(2.7)以下の項目がある教科についてはその項目に関して分析し、どのように改善していくのかを各教科で検討してもらっている。

Q.委員 2.7以下とはどういうことか。

A. 各教科ごとにアンケートを取るのでそれぞれの項目で2.7以下ということ。

(2) 学校教育自己診断について 《資料2》

【結果報告】

(村上首席より)

- ・アンケート結果についてはWebページ等を通じて生徒と保護者に返す。
- ・昨年からの質問項目を少し変えている。
- ・「吹田東に進学して(させて)よかった」の肯定的回答は生徒、保護者共に昨年を上回っている。特に3年生では生徒約8割、保護者は9割と高い肯定的回答になっている。
- ・授業の満足度については生徒・保護者共に肯定的回答は低い結果だったが、生徒の授業アンケートでは7月より12月の結果は上回っている。生徒が期待するものと、こちらが身につけさせたい内容に違いもあると思うが、今後も検討、改善に努めていきたい。

- ・教員の講習に参加した生徒の満足度は高い評価を得ているが、S講座についてはこれより低く、今後担当者と内容を検討していく。
- ・学校行事、部活動への取り組みについては生徒・保護者共に多くが「積極的に参加している」と回答している。今後も学校行事の充実と部活動の活性化については取り組んでいきたい。
- ・進路指導の取り組みについて、生徒の肯定的回答は約8割以上と高いが、保護者の連絡、意思疎通の肯定的回答は65%と低いので、生徒にも必ず情報等、確実に連絡するよう指導していく。
- ・生徒指導については、記述のアンケートでは「厳しすぎる」という意見もいくつかあったが保護者の7割以上が共感できるという回答になっている。今後も落ち着いた環境で授業や学校生活を送れるように指導していきたい。
- ・「Web ページを見るか」の肯定的回答は、保護者・生徒共に非常に低い。情報提供を携帯メールで行っているが、そちらの保護者の肯定的回答は9割弱と非常に高かった。今後はWeb ページでの情報提供も有効的に活用できるように工夫していきたい。
- ・施設についての満足度は昨年、一昨年より下がっている。記述の意見では空調のことや校舎内での水使用の制限の事などあったが、校舎の構造上仕方ないところがある。

(校長より)

- ・本校の生徒は人の話をよく聞き、言われたことをしっかりやろうとしているがその反面、我慢していることも多いかもしれない。そのことが生徒の満足度にあらわれている。
- ・自由度が高い学校ほど評価は高く、本校は社会に出るにあたって厳しく指導している部分もあるのでこのような数値なのでは。しかし、保護者の評価が高いのは本校の指導に賛同してくれる方が多いと思われる。
- ・記述の回答がかなり多いが、これについては時間がない中でも、もう少し教員と生徒がコミュニケーションを取らなければいけないと思われる。
また、これについては2回の授業アンケート結果からもコミュニケーションが不足していると感じた。

委員 生徒が授業の中で主体的に考え、主体的に発表するのではなく、決まりきったことをきっちりやっていくことで満足しているのであれば、主体性を持って授業に臨ませるということも課題である。

小学校、中学校でも行われている学校教育自己診断や学習状況調査の中で、生徒の学習に向かう姿勢など見ることができるので参考にしてもらっては。

(3) 平成29年度学校経営計画の達成状況について

(校長より)

- ・学校教育自己診断の結果と分析について
- ・今年度の2回の学校協議会からの意見のまとめ
- ・シラバスが役に立ったという生徒が少ない。
- ・授業アンケートの数値は向上している。
- ・大学入試状況について、全体としては昨年度より厳しい状況にある中で本校は昨年並みを保っている。
- ・進路ガイダンス、授業以外の学習時間は増加している。
- ・遅刻については昨年より少し増えている。
- ・部活動については運動部が少し減少し、文化部が少し増加している。
- ・文化祭の来校者については地域の方や中学生とその保護者など多くの方に来ていただいた。
- ・クリーンキャンペーンに多くの参加者で行ったが、ゴミの状況など考えると方法については来年度は見直すところもある。
- ・個人情報情報は適正に管理している。

- Q.委員 クリンキャンペーンに参加している生徒の人数が多いが、何か呼びかけはしているのか。
- A. クラブ員を中心に生徒会やその他の生徒に呼びかけているがほとんどクラブと生徒会の生徒が来ている。その他は阪大生と地域の方で行っている。
- 委員 この地域は地元の方が多く、ごみを捨てる人が少ない。
地域連携という点ではクリンキャンペーンの方法や別の取り組みを考えなければいけないのでは。
- 委員 クリーンキャンペーンを行っているから高校生や地域の人達でゴミを捨てる人が減っているかもしれないので、この取り組みは意義があるのでは。ただ人数とか方法は検討してはどうか。
- 委員 外国の方は日本の町がきれいな事に驚かれる。マジー高校や国際交流の中でこの取り組みを紹介しては。

○協議事項

(1) 平成30年度学校経営計画について 《資料4》

(校長より)

- ・中期的目標で、年間遅刻数を一人平均1.2回から1回にした。また、3(2)を追加した。
- ・大学入試改革に伴って来年度はTOEICBRIDGEからGTECに変更する。
- ・国際理解教育の一環として、オーストラリアの語学研修や海外の高校との交流だけでなく、校内での語学研修の実施を計画している。
- ・その他、今までの取り組みを継続しながら質を高めていけるようにする。

Q.委員 GTECはどのタイプを採用するのか

A. GTEC for studentのベーシックタイプを採用する予定。

委員 今後、進路を見据えてどの検定試験の採用をするかを決めては。

Q.委員 校内語学研修とはどのような内容か。

A. 業者を通して、講師を派遣してもらい行う。

担当者と日本語で打ち合わせ等を行えるので英語科だけでなく他教科の教員でも担当できる。

A. 費用は生徒が負担する。

本日、業者と打ち合わせを行ったが、英語科の教員から授業で行う内容と違ったものや、それに繋がるような内容のプログラムも要望した。

海外研修は期間も長く、費用もかかり諦める生徒がいる。

校内語学研修は夏休みに3日間で行い、費用も安い。

Q.委員 学年は何年生対象か。

A. 1. 2年が多いと思われるが、3年生でも可能。

委員 英語に関わるきっかけとして非常に良い取り組みだと思う。

A. 担当者との打ち合わせで、最終的な目標は日本文化を英語でプレゼンできるようにするという内容で3日のプログラムを計画して欲しいと要望した。

委員 日本文化を英語で伝えるということは、自国の文化も学ぶことになるので素晴らしいことだと思う。

○その他

(1) 新校舎について 《資料5》

(事務長より)

- ・2月より工事が始まり、旧校舎の杭を抜き、新校舎の杭を打つ工事から始まった。
- ・3月から基礎工事が始まり、5月ぐらいから本体の工事がはじまる。
- ・平成31年6月完成、7. 8月引っ越しの予定。
- ・今後、内装を検討していく

(2) 学校運営協議会について 《資料6》
(校長より)

- ・別紙資料説明
- ・来年度より名称が学校協議会から学校運営協議会に変更される。

◆諸連絡

- ・今回は、本校初任の教員が校内研修を兼ねて参加させていただいた。

◆閉会挨拶

佐々木校長より